

# 平成29年度 第1回横浜市学校保健審議会会議録

日時	平成29年7月11日（火） 午後6時20分から8時00分まで					
開催場所	関内駅前第一ビル302会議室					
出席委員 9名	鈴木 志保子	渋谷 裕子	青木 治人	井手口 学	海上 良太	大木 昭子
	大久保 辰雄	木村 昌彦	和田 喜久枝			
欠席委員 3名	伊藤 秀一	河野 伸二郎	山岡 義卓			
開催形態	<b>【審議事項】</b> ・学校で発生した事故の詳細調査について・・・非公開 ・横浜市として望ましい小学校給食のあり方について・・・公開（傍聴者 2人）					
議題	<b>【審議事項】</b> ・学校で発生した事故の詳細調査について ・横浜市として望ましい小学校給食のあり方について					
決定事項	会議録の確認者は大木委員に決定する。					
議事	1 会議録確認者の指名 横浜市学校保健審議会運営要領第6条第2項に基づき、会議録の確認者は大木委員に決定する。  2 <b>【審議事項】</b> 横浜市として望ましい小学校給食のあり方について （事務局） 諮問について4つの観点から審議を行うため、資料1、資料2、資料3を用いて説明を行った。「1学校給食摂取基準や食品構成の充足について」「2家庭における日常の食生活の指標となる給食の献立について」を検討するための資料として、資料1にはごはん献立の例ABC、資料2にはパン献立の例DEFを記載し、委員に見比べてもらうよう説明した。各献立例は、年度は異なるが実際に提供されたものである。また、「3日本型食生活や和食の伝承について」「4横浜の食文化への知識を深める献立について」を検討するため、資料3には、各種のデータを記載した。  （審議会委員より出されたご意見） ・献立ABC、DEFを比較して検討してもらいたい、という趣旨で考えると、当然資料1では献立A、資料2では献立Dがいいと考える。ただ、なぜこのように献立に差が出るのか。 ・物価により差が出るということであれば、保護者からいただいた給食費の収まる範囲内で、どのようなことができるのか。 ・家庭における日常の食生活の指標となる給食の献立というテーマだと、自分が親になったときにどのように子どもに食べさせるべきなのかということと、育てていく段階でどんどん量が多くなっていくということを知る必要もある。 ・例えば充実した献立（AやD）をたまに提供し、通常は並の献立（CやF）にする等の工夫も考えられる。 ・味付けについて選択するような形にできないか。  ・だしのとり方を工夫することはできないか。  ・献立にメリハリをつけ、旬のものを提供する際はしっかりとそれを味わえるメニューにする。Fのように煮物と一緒に入れたりしない。  ・諮問事項「3日本型食生活や和食の伝承について」「4横浜の食文化への知識を深める献立について」をしっかりと示したほうが良いと思う。  ・エネルギーなどを落とすことは学校給食の大元の子どもたちの体を良好にするということに反するため、すべきではないと思う。  ・行事食よりも子どもの体を守るということは当たり前の話だが、行事食のような天然のものを使用するということが横浜の売りであれば、答申内容に売りを明確に記したほうが良いと思う。					

資料	(資料) ・横浜市学校保健審議会資料 ・【資料1】望ましい献立を検討するための献立例（ごはん献立） ・【資料2】望ましい献立を検討するための献立例（パン献立） ・【資料3】望ましい献立を検討するための各種資料 (参考資料) ・法規集
特記事項	